

にほんぶらじるものごたり
日本とブラジルをつなぐ物語



1925年7月23日、13歳の少年が日本に「さようなら」をしました。船がゆっくり港を

離れました。少年は小さくなっていく日本をずっと見ていました。今までの思い出や、出会った

人たち、いつも見ていた景色が、少しずつ遠くなくなりました。

それから100年後（2025年8月2日）、同じ港にひ孫である私が立っています。私は、自分

のルーツを知るために、この場所へ来ました。

ごあいさつ

みなさん、こんにちは。三重県庁で働いているハシモト マリナです。

今月の「マルチ三重」では、私の家族とも関係がある「日系移民」について、お話しします。

最初に出てきた13歳の少年は、私の曾祖父（ひいおじいさん）です。

去年の夏、私は曾祖父がブラジルへ出発した港へ行きました。そして、移民者の名前が
書いてある名簿の中に、曾祖父の名前を見つけました。

曾祖父は、自分で「ブラジルへ行きたい」と決めたわけではありません。家族が決めて、兄と
一緒にブラジルへ行くことになりました。でも、その時の決断が、100年後の今の私に
つながっています。

今回は、私の家族の話を通して、日本とブラジルをつなぐ移民の歴史を紹介します。

日本移民の歴史

1908年、ブラジルのサントス港に、日本から来た最初の移民船「笠戸丸」が着きました。船には781人の日本人が乗っていました。

そのころ、ブラジルではコーヒー農園で働く人が足りませんでした。一方、日本では人口が増え、食べ物や仕事
が足りなくなっていました。

そのため、多くの人々が「家族をもっと幸せにしたい」「もっと良い生活をしたい」と考えて、ブラジルへ行くことを決めました。

しかし、ブラジルでの生活は、とても大変でした。仕事はとても厳しく、食べ物も日本と違いました。また、言葉も通じず、給料も少なかつたため、多くの人々が苦しい生活をしました。

私の祖母の話では、食べ物を買うお金があまりなかったのので、家族で野菜や大豆を育てて生活していたそうです。そして、その大豆を使って、醤油や味噌も自分たちで作っていました。



どりよく すえ きず せいかつ 努力の末に築いた生活

暑い中、多くの日系移住者は、朝早くから夜遅くまで農園で働きました。

その結果、少しずつ農園を離れて大きな町に住み、生活を安定させることができるようになった人が増えました。

私の曾祖父もブラジルで育ち、結婚したあと、カンピーナス市で店を始めました。

家族みんなで協力して、朝早くから夜遅くまで、パンや野菜、お菓子、お酒などを売っていました。

その店は、50年以上たった今でも、祖母が毎日開いています。私も小さいころ、よく店を手伝っていました。いとこたちと遊んだり、お菓子をもらったりした思い出があります。

日系人たちは、大変な生活の中でも、子どもの教育をととても大切にしてきました。

その努力のおかげで、今では多くの日系人が、政治、経済、医療など、いろいろな分野で活躍しています。

そして、ブラジル社会の発展に大きく役立っています。



ブラジルにある日系文化

こ ぶらじる い そうそふ
 子どものころにブラジルへ行った曾祖父は、ほか
 おお につけい いじゅうしゃ おな にほん
 の多くの日系移住者と同じように、日本の
 ぶんか たいせつ
 文化をととても大切にしていました。

はしもとけ だいどころ しょうゆ
 橋本家の台所には、いつも醤油がありました。
 ぶらじる りょうり いっしょ つけもの かれー
 そして、ブラジル料理と一緒に、漬物やカレー、
 みそしる た
 おにぎり、お味噌汁などを食べていました。

みせ らじお えんか なが
 店では、いつもラジオから演歌が流れていまし
 はな ことば ぼるとがるご にほんご ま
 た。話す言葉も、ポルトガル語に日本語が混ざっ
 とくべつ はな かた
 た、特別な話し方でした。

わたし かぞく ぶらじる
 これは、私の家族だけではありません。ブラジル
 す につけいじん きょうつう ぶんか
 に住むたくさんの日系人に共通する文化で
 す。

ぶらじる やく まんにん につけいじん
 ブラジルには、約200万人の日系人がいると
 い ぶらじる す おお
 言われています。ブラジルに住んでいても、多くの
 ひと ところ なか にほん たいせつ
 人が心の中で日本を大切にしていました。
 ぶらじる ぶんか まな にほん
 そして、ブラジルの文化を学びながら、日本の
 ぶんか こ まご つた
 文化も子どもや孫へ伝えていきました。

いま ぶらじる にほんぶんか ふか
 そのため、今のブラジルには、日本文化が深く
 ひろ ちいき にほんぶんか
 広がっています。いろいろな地域の日本文化
 きょうかい たいこ そーらんぶし でんとうぶんか
 協会では、太鼓やソーラン節などの伝統文化
 まも
 を守っています。

さんぱうろ まいとしひら にほんまつ
 また、サンパウロで毎年開かれる「日本祭り」に
 3にちかん やく まんにん き にほんしょく
 は、3日間で約20万人が来ます。日本食も
 ぶらじる にんき にほんしょく
 ブラジルでとても人気があります。日本食
 れすとらん
 レストランもたくさんあります。

にほん とお はな ばしょ ひとびと
 このように、日本から遠く離れた場所でも、人々
 おも にほん ぶんか いま たいせつ
 の思いによって、日本の文化は今も大切に
 う つ て
 受け継がれています。

ぶんか にほん
 そして、その文化は、ただ「日本の
 ぶんか
 文化」というだけではありません。
 ぶらじる なか そだ へんか
 ブラジルの中で育ち、変化しながら
 つく たいせつ ぶんか
 作られてきた、とても大切な文化で
 す。

わたし につけいぶんか かぞく
 私にとって、この日系文化は家族の
 れきし じぶん
 歴史です。そして、自分がどこから
 き おし たいせつ
 来たのかを 教えてくれる、大切な
 ルーツでもあります

さいご 最後に

にほん ぶらじる いみん れきし きぼう
 日本からブラジルへの移民の歴史は、希望
 ゆうき ものがたり
 と勇気の物語です。

わたし につけいこみゆに てい たいせつ
 私は、日系コミュニティから大切なことを
 まな くに ぶんか たい
 学びました。それは、「ほかの国の文化を大
 せつ じぶん ぶんか す
 切にすることは、自分の文化を捨てることで
 はない」ということです。

かんが かた い かた し
 いろいろな考 え方や生き方を知ること
 じぶん せikai かうせい ひろ
 自分の世界や可能性はもっと広がります。

おたが りかい
 そして、お互いを理解することは、みんなが
 へいわ せいかつ たいせつ
 平和に生活するために、とても大切だと
 おも
 思います。

じぶん る 一つ ほこり
 だからこそ、だれでも自分のルーツに誇りを
 も ぶんか まえむ しゃかい
 持ち、ほかの文化にも前向きになれる社会
 つく おも
 を作りたと思っています。



いけん おし

あなたの意見を教えてください！

こえ つぎ にゅーすれたー

あなたの声が、次のニュースレターで

しょうかい

紹介されるかもしれません。

きがる さんか

お気軽にご参加ください！



M u l t i c u l t u r a l M i e

マ

ル

チ

三

重

